

市長から前向きなご答弁いただいていたんですが、何とかほかの財源でつくるということはできないもんでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 松木地域づくり推進課長から答弁がございましたように、コミュニティ助成事業ではトイレ等の整備はできないということから、今年度当初で何とか、これは単独事業で予算化したというふうに考えておりました。残念ながら当初では財源的に厳しいということから先送りをさせていただきましたけれども、ご承知のとおり、パークゴルフ場につきましては、指定管理料をゼロで運営していただいております。27年度の実績などを見ますと、年間の利用者が9,461名で、議会からもご理解いただいて、会員制という制度をとっておりますが、会員の方が174名ということでございます。稼働率が何と97.3%ということになっておりまして、管理運営を行っていただいている野川クラブさんのほうからは、やはり女性の方たちが利用されるとき、利用者、女性も大変多いわけでございますが、仮設トイレでは非常に大変だということから、常設のトイレの要望がずっと出されておりました。加えて、今年度から建設中の川西町でも立派なパークゴルフ場が建設されるということで、ぜひ補正等々で財源が確保できましたら、これは単独事業になるかと思えますけれども、建設していきたいと、そしてパークゴルフ場の利用者の皆様のさらに快適で健康づくりのために資するようなトイレも整備してまいりたいというふうに考えているところです。

○蒲生光男委員長 1番、宇津木正紀委員。

○1番 宇津木正紀委員 補正で財源確保できたという大変前向きな答弁いただきまして、ぜひ何とか財源を確保していただいて、補正で対応して、立派なトイレをつくっていただくようお願いして、質問を終わります。

## 内谷邦彦委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位2番、議席番号4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 予算総括質疑をさせていただきます。よろしくお願いいたします。

10款教育費、5項保健体育費、002、スポーツ振興事業、長井マラソン大会運営事業委託料195万円について質問いたします。

文教常任委員会協議会での説明では、長井マラソンは県内唯一のフルマラソン大会であり、フルマラソンの参加者は、平成27年度は491名、うち女性41名で、前年度と比較して20%強増加しており、また、その多くが市外、県外からの参加で占める大会です。ことしも既決予算の中で、要項の作成や申し込み開始を早める、ハーフマラソンを種目として復活するなど、参加者をふやす取り組みをしているところです。しかし、今年度は第30回という節目の大会であり、また、近年のマラソンブームにより、市民大会の数はふえ、競争も激化していることから、ゲストランナーを招待するなどの記念大会にふさわしい大会にするとともに、今後も大会を継続していくために、市民が楽しめて一丸となって大会を支えていく地域づくりが必要であり、そのきっかけづくりとなる大会とするために補正するもので、補正予算の内訳としては、ゲストランナー招待費用として120万円、宿泊費用8万1,000円との説明を受けました。

平成28年度歳入歳出予算書では、長井マラソン大会運営事業委託料140万円となっており、平成27年度歳入歳出予算書では同様に、長井マラソン大会運営事業委託料140万円となっております。平成26年度歳入歳出予算書では、長井マラソン大会負担金として20万円、平成25年度歳入歳出予算書でも同様に、長井マラソン大会

負担金として20万円計上されております。平成25年度決算書では、013、地域スポーツ活動推進事業長井マラソン大会開催事業補助金として90万8,000円、平成26年度決算書では、長井マラソン大会公認検定業務委託料69万円、長井マラソン大会負担金359万5,000円、平成26年度主要な施策の成果報告書によると、大会参加者、フルマラソン409名、ハーフマラソン154名、5キロ、57名、3キロ、34名、山形県内唯一のフルマラソン大会として開催される長井マラソンは、県内外から多くの参加者がいます。近年のマラソンブームにより、本大会も年々参加者が増加する中、ランナーの安全対策が必要となっている。また、大会運営では、競技団体やボランティアなどに支えられながら行っていますが、まだまだ不足していることから、協力者を募っていくことも必要である。他市町村で各種マラソン大会開催がふえており、参加者の奪い合いもあり、魅力的なほかの大会に劣らない運営が大切となっているとの記述でありました。

教育参事に伺います。最初に、補正予算の説明では、参加者について伺います。

説明では、参加者は平成27年度は491人、うち女性41人で、前年度と比較して20%強増加とあります。公開されている平成29回長井マラソン大会部門別結果を確認しますと、フルマラソン男子367名、女子33名となり、合計400名となります。この差は、リタイアされた方、あと時間内にゴールできなかった方の数になりますか。91人がそうであれば、20%弱の方がゴールできていないこととなりますが、いかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

内谷委員のお見込みのとおりでございます。平成27年の491名はエントリーした人数であります。完走された方は400名となっております。

この差は、やはり出走しましたが体調不良な

どにより棄権した方のほかに、エントリーはしたものの、最初から出走しなかった方になります。

マラソンは体力的にハードな競技でございます。個人種目でもあることから、体力に不安があると出場しない、途中棄権するといったことがほかの競技より多く発生いたします。また、完走率は当日の天候等にも大きく左右されるようでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 これは事業委託先はどこになるのでしょうか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

委託先は、長井マラソン大会実行委員会になります。委員の構成につきましては、会長に長井市長、副会長に長井鉄人会、長井市体育協会、西置賜地区陸上競技協会の会長がそれぞれなっております。そのほかは、長井商工会議所、長井市観光協会、置賜地域地場産業振興センター、交通安全協会、長井市スポーツ推進委員会、長井市西置賜郡医師会、コース沿線の地区長会及び商店街、長井走ろう会、長井市応急手当普及員協議会、市関係課長など39名、あと長井警察署長、西置賜行政組合消防長にはアドバイザーになっていただいております。事務局は、生涯スポーツ課が担っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 それだけの方がいらっしゃって、実際に動かれるのはどこなのでしょう。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 事務局は生涯スポーツ課になってございますので、実際は事務局のほうで動いているというようなどころでございますし、運営協議会もつくって、詳細についてはそちらのほうでやっているというところでございます。

以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 平成27年度と26年度の参加者のうち、長井市民は何人で、山形県人は何名、海外の方は何人でしょうか。あと、定期的に来ていただいている方は県内に何人、県外に何人いるのか、教えていただければありがたいんですが。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

平成27年度の参加者は613名、長井市からの参加者32名でございます。県内他市町村からの参加者は273名、県外からの参加者は308名となっております。都道府県数におきましては、24の都道府県となっております。平成26年度の参加者は653名、長井市からの参加者は33名、県内他市町村からの参加者は322名、県外からは298名となっております。都道府県数におきましては、29都道府県となっております。

続きまして、定期的にエントリーしていただいている方は、過去4大会での統計になりますが、2回が329名、内訳は、市内20名、県内他市町村で191名、県外118名、3回が161名で、内訳は、市内13名、県内84名、県外64名、4回が82名で、内訳は、市内が5名、県内他市町村51名、県外26名となっております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 それで、昨年参加された方、あとは毎回定期的に来ていただいている方の市外の方へどのような案内をしているのかで、その際に、今までに参加されたときの記録などの経過を記入し、展開しているのか。また、継続して参加されている方への特典などはあるのか。例えば5回ごとに参加継続された方に感謝状などを渡しているのか。そういうことはやっていらっしゃるのか教えてください。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

特段そのようなことはやっていないというふうなことでございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 単純に、私、考えるのに、そういった参加されている方は非常に貴重な方だと思っておりますので、やはりそういった方に案内のときに、昨年の記録はこうですとか、そういった形で案内をしていくなり、継続して参加されている方は非常に我々にとっては大切な方ですので、その方がそれ以降も来てもらえるような対策はとるべきだと思うんですが、そういったことはいかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 特段プレゼント的なものはしておりませんが、昨年来ていただいた方に対しては、ことしの要項等は郵送させていただいて、極力再度来ていただけるような取り組みはしてございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 わかりました。

あと、素朴な質問なんですけども、毎回長井マラソンを開催している意味を教えてください。第29回の開催要項を見ても特に書いてありませんでした。

ちなみに長井マラソンと時期的に競合すると思われる公認コースの近郊都市のマラソン大会は、11月に開催される福島湯のまち飯坂・茂庭っ湖マラソン、10月に開催されるいわて北上マラソン大会、新潟シティマラソン、柏崎マラソンなどがあり、湯のまち飯坂・茂庭っ湖マラソン大会の趣旨では、「福島及び飯坂の復興のためにも、関係者一同、より一層のおもてなしの気持ちでランナーの皆様をお迎えいたします。」新潟柏崎マラソンでは、「競技会ではなく、市民ランナーが主役になれる大会です。そして参加者同士でさらに地元ボランティアと親交を深め、私たちの思いを肌で感じていただく

ことでもあります。これが私たち実行委員一人一人の思いであり、大会趣旨となっています。柏崎の人と自然に触れていただきながら、私たちが大好きな柏崎のぬくもりを体感していただき、大会を楽しんでください」というふうに書いてあります。

長井マラソンの大会要項書を見ても、開催のあれはあるんですけども、そういったものが何も書いてないんですが、この辺はいかがでしょうか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

初めに、長井マラソンの経緯等について、ちょっと簡単にご説明させていただきますと、こととして30回を数える大会であります。初め、長井市が主催する大会ではありません。長井鉄人会を中心とするマラソンの愛好者で始められた大会でございます。その後、長井市陸上競技協会、長井走ろう会などの関係団体も加わっていただきながら、運営につきましても市といたしまして協賛、負担金を支出してまいりましたが、基本的に手づくりの、そして参加料収入を主とした収入で行われてきた大会というふうなことでございます。県内唯一のフルマラソンの大会でありますので、参加者もふえ、交通規制等の警察署との調整、救護のための医師の配置等の安全対策から民間からの運営は厳しくなり、平成25年度から市が主催する大会となったというふうなことでございます。

平成26年度には、市制施行60周年記念にあわせまして、マラソン大会のコースの公認を取得して、まちなかを走る「ながい山の港町マラソンコース」というふうなことを設定したところでございます。そのために、公認取得のための費用、コースを変更し、まちなかを走るために必要となった交通規制、看板設置等の費用を支出させていただいたというふうなところでございまして、市の負担に頼り過ぎない運営を継続

して行ってきたところでございます。

開催している意味につきましては、これまでの経過を踏まえて、市内外を問わず多くのランナーに参加いただき、長井のまちを走っていただくことはもちろんであります。市が主催する大会でありますので、駅伝とマラソンのまち長井としての知名度がアップし、長井市の魅力を発信することで、交流人口や観光客の増加、地域の活性化につながっていく……。

○蒲生光男委員長 教育参事、聞かれたことだけお答えください。

○横山賢一教育参事 はい。

市民のスポーツの推進に、イベントにしなければならないというふうを考えているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 次に、今後も大会を継続していくために補正するとあります。また、他市町村で各種マラソン大会の開催がふえており、参加者の奪い合いもあり、魅力的なほかの大会に劣らない運営が大切となっているというふうに書いてありますけども、このほかの大会に負けない理想とする運営方法についてはどのように考えているのか教えてください。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

長井マラソン大会は、県内唯一のフルマラソンの種目になりまして、しかも全国で数少ない公認大会というふうな強みを生かしていかなければならないというふうと考えてございます。昨年に続きまして、フラワー長井線に乗車していただきながら12.195キロを走る長井マラソン大会特有の種目も行っていきたいというふうに考えておりますし、さらに、走り終えた後にはつや姫のおにぎりであったり芋煮を参加者の方に振る舞うなど、長井の大会はいい、また参加したいというふうな気持ちになっていただくような大会にしたいというふうと考えております

し、加えて、市民、特に小・中学生の参加をふやしたいということから、ことしは5キロをなくして、小学生が参加しやすい2キロと中学生が参加しやすい3キロを設定しました。特に2キロのコースにつきましては、プラザ運動公園をランナーだけでなく応援者の方にも知っていただき、親しんでいただけるように、陸上競技場のトラックとプラザ運動公園を周回していただくコースというふうなことにさせていただいたところでございます。

マラソン大会につきましては、多くの役員、ボランティアの協力がなければ実施することができないというようなことがありますので、地域一丸となって市民も楽しめる大会にしていかなければならないというふうに考えているところでございます。

まして今年度は30周年の記念大会でもありますので、オリンピックや世界陸上で活躍した知名度のあるアスリートやゲストランナーを招待することで、参加者や沿道の応援をふやすとともに、前日にはランニング教室を開催して、走ることの楽しさを多くの方に体感していただきたいというふうに考えているところでございます。

ただ、昨今のやっぱりマラソンブームというふうなところもありまして、参加者の方々の宿泊や飲食というふうなところで大きな経済効果があるというふうなことがありますし、多くの自治体が開催に乗り出してございまして、平成26年1年間では1,889の大会が開かれているようでございます。そうした中で、長井市の部分についても生き残りをかけて、どれだけ魅力的な大会にできるかというふうなところが問われているのかなと思ってございまして、ことし、10月16日は県内でも酒田であったり米沢であったりというふうな大会が予定されているようでございますので、今後について検討する必要があるのかなというふうに考えておりますし、長

井市の場合、全国白つつじマラソンと2つの大会を開催しているというふうなところもありますので、そういうところで、今後、マラソン大会に参加するランナーにつきましても、競技志向から健康、イベント参加志向とさまざまでありますので、長井マラソン大会につきましても、今後は開催時期や会場コース、交通規制、必要な役員数、市の負担のあり方等も含めまして、再度検討してまいりたいというふうに思っているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 これ開催する場合、今年度になると思うんですけども、目標とする参加ランナーは現在どのぐらいを設定されていらっしゃるんですか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

800人を想定してございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、今回、やまがた長井観光局とタイアップするとの話でしたけども、長井市を広く知っていただくため、または長井市に何らかの形で貢献するとした場合に、市内関係者との協議により、宿泊費用、移動費用、参加費用をセットにした宿泊パックなどの検討は今までなされなかったのか。大会要項では、宿泊旅館ホテル案内として表があります。電話番号がありました。これでは参加される方にとって非常に情報不足ではないかと思っております。交通手段としては、JR山形新幹線赤湯駅から車で30分、山形鉄道フラワー長井線南長井駅から徒歩20分、長井駅から車で10分と書いてありますが、駅から宿泊場所への交通機関、あと宿泊場所からスタート地点までの交通機関、あと更衣室の準備、あと貴重品以外、手荷物の預かる場所、あと帰る場合にスタート地点から最寄りの駅までの交通手段、これ何も書いてありません。2015年大会要項の中でも、「大会事務局

では旅館などのあっせんはいたしません。長井市内ホテル、旅館、ビジネスホテル案内を参考に、各自でお申し込みください」と書いてあります。

継続して来ている方はわかるんでしょうけども、初めて来る方が見たら、見放しているような印象にはならないか。実際、自分がそこに行った場合を想定して考えなければいけないのではないのでしょうか。車で来られる方、公共交通機関で来られ、長井市内に宿泊された方が問題なく参加し、終了後帰宅するまでが大会ではないかと考えてますので、そこまで考えてこういったことをやられているのか。市内の方でも市外の方でも長井市のファンをふやさないと開催している意味がないというふうに考えてますので、こういったきめ細かい対応というのは今までなされてこなかった。今後はどのようになされるのか、お伺いしたいと思います。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

ことしの4月からやまがた長井観光局が開局しましたので、ことしの大会要項につきましては、宿泊・観光情報の問い合わせ先といたしまして、やまがた長井観光局の電話番号、ホームページのアドレスを載せさせていただきます。

また、宿泊あっせん、予約の窓口として対応していただくというふうなことで、市内観光ができる旅行商品をご提供いただけるというふうなことを聞いてございます。

あと、交通手段や更衣室、その他詳細にわたっての情報につきましては、要項の紙面がやはり限られておりますので、市のホームページ等を利用しながら、できる限り必要な情報の発信に努めていきたいというふうに考えてございます。

なお、県外からの参加者が多いとはいえ、近隣の宮城、福島、新潟からの参加者が多く、現

実的に何人の方が市内に宿泊されているのか把握できていない状況でございますので、ことしはお楽しみ賞の申込書に参加の動機であったり宿泊、終了後の予定等を記入していただくアンケート欄を設けて、以降、いただいたものを分析しながら、来年以降の大会に生かしていきたいというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、これに付随してなんですけども、県内で行われている各種マラソン大会などに実際関係者の方が行って、どのような運営を行っているのか確認したり、それを参考として、これからこうしようとか、そういったことはやっていらっしゃるんですか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

業務では行ってございません。個人的に行っ

て見てくるというふうなところはあろうかなとは思いますが、残念ながら業務ではやってないというふうなところでございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 山形県内でも各種マラソン大会やられてます。やっぱりそういったものを参考にして、いいところをどんどん取り入れていかないと、周りに取り残されてしまうんじゃないかというふうに考えてますので、その辺は今後やはりいろんな大会を見られて、いいところはどんどんまねしていかないと、ファンはふえないのではないかと思いますので、その辺は今後ぜひ検討していただきたいと思います。

あと、事業委託されているとした場合、委託先にはどのような内容の委託になるのか、あと、開催することで委託する場合に、委託先は問題なく開催することがメインとなり、長井市全体への波及効果などは委託側である行政が市内関係者との打ち合わせにより決定すべきとは思いますが、先ほどもちょっと話は出たんですが、

その辺、再度お願いいたします。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

長井マラソンの大会の実行委員会は、委託先のご質問の際にお答えいたしましたところですが、会長は市長でありますし、さまざまな団体の代表の方で構成されておまして、単に開催のみでなく、マラソン大会全般にわたっての委託となっております。

また、大会運営の詳細につきましては、運営委員会を組織しまして運営に当たってもございます。運営委員会の構成につきましては、長井鉄人会、陸上競技協会、長井走ろう会などとなっております。また、事務局は、実行委員会と同じく、生涯スポーツ課が担っております。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 先ほどから委託先に関しては余りにも頭がいっぱい過ぎて、意見がまとまらないんじゃないかというふうな気持ちもありますので、逆に必要な部分を整理して、実行されている方がやっぱりメインとなって動かないとどうしようもないので、その辺は今後ぜひ検討していただきたいというふうに考えてます。

あと、平成26年度決算書では、長井マラソン大会コース公認検定業務委託料69万円が発生しておりますけども、これ、定期的に検定業務が必要なのか。あと、今回発生したのはコースなどの変更があったため発生したのか。あと、公益財団法人日本陸上競技連盟登記登録者でないと記録が公認されなということなんですけども、実際、登録ランナーで走られた方というのは昨年と比べて何人いらっしゃるのか教えていただけますか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

平成26年度市制施行60周年を機にまちなかを

通るコースに一新しまして、あわせて日本陸上競技連盟の公認認定を受けたところでございます。有効期間は5年間ですので、次回の更新は平成30年度になります。

また、昨年の日本陸上競技連盟登記登録者がありますが、男子が58名、女子が5名エントリーされております。中に実業団のニューイヤー駅伝やオリンピック代表選考会のマラソン大会に出場された選手もエントリーされたようでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、平成26年度にゲストランナー5名、招待していらっしゃいます。ゲストランナーが来たことでの効果について検証なされたのか、検証結果を伺いたい。検証結果によって今回ゲストランナーを呼ぶこととしているのか、呼んで何をするのか、ゲストランナーを招待する金額に見合う効果をどのように考えているのか教えてください。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 お答えいたします。

平成26年のゲストランナーにつきましては、ご本人のほうから申し出がありました吉本興業所属の芸人、宇野けんたろうさんと箱根駅伝の優勝経験もあります大東文化大学の学生4名を招待してございます。皆さんには走り終わった後の表彰式のプレゼンターとしてもご協力いただき、ランナーと一緒に写真におさまるなど、好評を得ましたし、大東文化大学の学生には、大学長距離界のトップランナーの走りを間近に見るというふうなことで、地元の小・中学生の競技力向上につながったのではないかなというふうに考えているところでございます。

あと、今年度、記念大会の部分でございますが、先ほども若干触れさせていただきましたが、記念大会というようなこともございますので、オリンピックや世界陸上で活躍した知名度のあるアスリートをゲストランナーとして招待した

いというふうに考えてございます。そうしたことで参加者や沿道での応援をふやすということとともに、前日には来ていただいて、ランニング教室を開催して、走る楽しさを多くの方に体感していただければなというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、ちょっと話変わるんですが、RUNNETというネット上のポータルサイトがあります。このサイトでは、各地で開催されているマラソン大会での開催時期、参加要項を紹介し、その中で各大会に参加されたランナーの大会への評価まで載っています。これで上がっている部分でいうと、マイナス面でいうと、距離表示が小さい。あとスタッフがふなれである。あとフルマラソンではもう二、三カ所、給水があってもよかったかもしれない。給水箇所が少な過ぎると。選手の側に立ち、給水ポイントの再検討を望むと。あと市民参加の応援が少ない。温かい応援、声援が選手の力になります。大会パンフレットやホームページが充実していない。フラワー長井線で参加のランナーもいたが、南長井駅など最寄り駅に歓迎ムードが全くない。募集要項が出たのが8月のお盆ごろで、余りにも遅過ぎる。あと最後に、山形県唯一のフルマラソン、この優位性をもっと利用して、地域振興につなげるべきだと、こういった意見まで載っているんですけど、こういったものを見たことはございますでしょうか。

○蒲生光男委員長 横山賢一教育参事。

○横山賢一教育参事 私もホームページ等で、そのサイトではありませんが、各マラソン大会の評価をしているホームページ等々を若干見させていただいたところでありました。やはり、今、委員がおっしゃったような部分で、表示が少ないであったり、サポートしておられる方が少ないというふうなところとか、周りの沿道が人が少ないみたいなどの何か書き込みはあった

ようでございますが、そういうようなところを真摯に反省というふうなところで受けとめて、改善につなげてまいりたいなというふうに考えております。スポーツ課のほうでは、そこら辺は活用して見ておるようですので、PRしていきたいというふうには考えてございます。

また、委員ご指摘の部分もありまして、今後、先ほど申し上げましたように、長井市的には2つのマラソンを抱えているというような状況もありますので、そこら辺も含めて、今後どうしていくのか、早急に検討して、答えを出していく必要があるのかなというふうに考えているところでございます。やはり分散してしまいますと、どうしても利用者の数がふえてこないというふうなところであったり、大会の運営についても大変だというような部分もありますので、そこら辺も踏まえながら検討してまいりたいなというふうに考えているところでございます。以上でございます。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 あと、最後に内谷市長に伺いたいのですが、先日行われた寒河江第40回さくらんぼマラソン大会で開催がありまして、参加者が2,420名、昨年より1,000人以上ふえたと。今回で15回目を迎えたひがしねさくらんぼマラソンでは、コース設定がハーフマラソンと10キロ、5キロ、3キロで、参加者が1万2,326人、ゲストランナーが4名と。参加費用についても種目ごとではなくて、一般が4,000円、高校生が2,500円、小・中学生が2,000円でした。一方、長井マラソンでは種目ごとに、フルマラソンが6,000円、ハーフマラソンが5,000円、5キロ、3キロ、一般、高校4,000円、5キロ、3キロ、中学生が2,000円、3キロ、小学生2,000円、高校生でフルマラソンで6,000円、ハーフで5,000円というのは高くないかと。ここまでの金額を払って走る方は何人いるのでしょうかと。個人的な考えですが、高校生であれ



ば2,500円で参加できるように検討すべきではないでしょうか。

また、マラソンが開催されている時間、競技話で何をするのか。そこにも人が集まる工夫が必要ではないでしょうか。先ほど話しましたように、先ほどはちょっとあれですけど、3キロ、5キロでは、市内の小学校、あとは中学生であれば無料で参加できるようにするということは考えられないでしょうか。

ちなみに白つつじマラソンでは、10キロ、5キロ、2キロの開催で、参加費用は小・中学生1,500円、高校、一般は2,500円というふうになっているんですけども、こういったことは今後考えていかれることはあるのでしょうか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 ただいまのご質問なのですが、答えさせていただく前に、横山参事が懸命に答弁させていただきましたが、ちょっと論点がずれているものですから、どういう課題があるのかということをお話しさせていただいた後、答弁させていただいてよろしいですか。

まず、長井マラソンにつきましては、非常に競技性の高い大会なんですね。一方で、白つつじマラソンというのは、これは市民マラソン、シティマラソン系列です。ことし、長井マラソンの30回ということで、記念大会だから大きくしたいということで補正を計上させてもらったんですけども、第1回から25回までは鉄人会を中心とした、走ろう会を中心とした市民の皆さんの手づくりだったんですね。それが25回目から、市長がならんきやだめだとなったのはなぜかといいますと、長井市西置賜郡医師会の協力を得られなくなったということなんです。というのは、やはり主催者団体が、例えば後援とか共催で長井市とか教育委員会が入っていても、マラソンなものですから、事故が非常に心配だと、その際に、医師会として医師を派遣するには、さまざまな問題から、やっぱり行政が主催

者にならんきやだめだという強い要望がありまして、それで25回目から、26回目からかな。25年度からですね。失礼しました。ですから26回目から長井市が一応主催みたいな形になりました。以前主催いただいたところも一体となって、運営のほうのノウハウは市のほうで全くありませんので、それで継承してやってきたということでございます。

そんなことから、非常に矛盾があるんですね。市がやっている割には、内谷委員がご指摘のように、非常に、何ていうんでしょうか、無責任な発言的な部分も感じられたと思うんですけども、私どもとしては、少しずつ、今の流れはシティマラソンなものですから、できるだけまちなかをランナーが走って、市民や商店街の皆さんから応援をいただいて、元気で走れるような、そういう大会にしたいというふうには思っているんですけども、残念ながら参加者の内容を見てみますと県外が多いんですね。市外が多い。長井市以外の県内と県外でも9割以上ということで、しかも高校生は参加者ゼロなんですね。あと小・中学生も、去年が3キロと5キロのコースをつくったようなんですけども、30名ぐらいしかいないんですよ。ですから全く市民には残念ながら、趣旨からいって、競技性が高くて、東北では山形県と福島であるだけということで、最初やった長井鉄人会を初め走ろう会とか、そういった方たちはすごいと思います、私は。ただし、ちょっと私どもと一緒にやるときには、もう少し今後のことを考えながらやらんきやいけなかったということがございますので、ぜひまずそれをご理解いただきたいというふうに思います。

お尋ねの件でございますが、委員おっしゃるように、本来であれば、飯豊町なんかは無料のようですし、小・中学生は無料でもいいんじゃないかというふうに思うんですが、一応競技性の強い大会だということなものですから、全部

タイムを計測するんですね。ですから参加者は全員と。そしてまたタイムの計測は機械でやりますので、チップが必要なんですね。そういった実費代がかかってしまうということと、あとその後、これも民間でやってきた大会なものですから、後での振る舞いというのがあるんですけども、そういった経費もある程度参加者からいただくという発想から、この金額になってしまったということでございます。

なお、今回補正させていただいて、ちょっと有名なランナーをとということでございますが、今回は、小学生ですね、主に、あそこの陸上競技場の中を走ると、外に出ないで、そこで市内の保護者の方たちも応援に来てもらおうと、さらに、ゲストランナーについては、いろんな指導を終わった後してもらおうということで、単に市外の方に、知名度のある方を連れてくるから参加してくださいということだけじゃなくて、市税を使わせていただくわけですから、市内の子供たちの、何ていうんでしょうか、競技力の向上とか、あるいはマラソンに関心を持ってもらう、そういったことを目的としてやっていきたいと思っておりますので、ご理解いただきたいというように思います。

○蒲生光男委員長 4番、内谷邦彦委員。

○4番 内谷邦彦委員 今回、構成に関して質問させていただいているのは、方向性がまず見えないという部分です。やっぱり競技性を重視するのであれば、別にマラソン一本でもいいんじゃないのという部分もあります。人を集めようとすると、やっぱり中途半端な運営方向になっているような気がします。あと、先ほども話しましたように、継続している方への案内が余りにもおざなりになっているように思います。そういった方は非常に大切な方ですから、そういった方には常に連絡をとって、毎回来ていただけるような形をとっていかないと、なかなかやはり、誘われれば絶対来ると思っておりますので、ぜ

ひ誘って人数を上げていくと。本当に人数をふやすのであれば、市内の方をどんどん参加させるような対策もとらなきゃなんないし、その辺、どういうふうにするのか、今後十分に検討させていただいて、運営をしていただければと思いますので、よろしく願いいたします。

私からの質問は以上で終わります。

## 五十嵐智洋委員の総括質疑

○蒲生光男委員長 次に、順位3番、議席番号12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 一般会計補正予算第3号、総務管理費、委託料336万2,000円、公共施設等整備事業について、市長にお尋ねいたします。

これは1階に食品スーパーが入るように交渉中ということで、きょう現在、まず、決定はしていないという前提でこれからご質問を始めさせていただきますのでよろしいですか。

○蒲生光男委員長 内谷重治市長。

○内谷重治市長 お答えいたします。

五十嵐委員おっしゃるように、残念ながら現在のところ決定はしておりませんので、その前提でお尋ねいただければありがたいというふうに思います。

○蒲生光男委員長 12番、五十嵐智洋委員。

○12番 五十嵐智洋委員 そこで、1番には、1階に食品スーパーが入居した場合、2番目に、1階にも今後、不調に終わった場合ということで、仮定ではあるんですけども、2段構えで通告いたしましたので、よろしくお願いしたいと思います。

中心市街地を活性化させなくちゃいけないし、観光交流センターにもぎわいが必要だということで、私もこれまで関連してご質問してまいり